Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-08

自治体史編纂事業

坂江，渉
大村，拓生
三村，昌司
河野，未央

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,2(平成15年度事業報告書):57-58

(Issue Date)
2004-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002187

自治体史編纂事業について

(1)新宮町史の編纂状況について

新宮町は兵庫県西部の揖保川流域にある、人口1万7,000人ほどの町である。原始・古代以来の文化財や歴史遺産に富み、町民の歴史文化意識もかなり高い。

神戸大学は平成14年（2003）度から、この新宮町と「兵庫県新宮町における地域資源としての歴史文化遺産の調査および成果の刊行」と題する共同研究を開始した。各時代ごとの研究責任者を決め、そのもとで各時期の基本史料の収集や、未活字化史料の調査・解明をすすめている。これを通じて、この地域の歴史的特質を明らかにし、その成果を『町史』として、町民に還元することを目的としている。

このうち『新宮町史　史料編Ⅱ』（近現代編）は近々刊行の予定である。また『史料編Ⅰ』（古代・中世・近世編）は、平成16年度内の発行をめざし、現在、執筆・編集作業が急ピッチで進んでいる。このような事業をおこなう上で、地域連携センターは大きな役割を果たしている。集められた史・資料の調査・分析場所、各部会の史料の編纂場所の一つとして使用されている。また当センターの教官や研究員スタッフは、部会長などとして活躍している。

■『新宮町史　史料編Ⅰ』（古代・中世・近世編）の執筆・編集の進捗状況

〈古代〉

関西を中心とする古代史の専門研究者の協力を得ながら、すでに基本史料の収集作業を終えた。何度かの共同研究・討議を経て、約60件近くの史料の掲載を決めた（大化前代～平安前期頃）。古代の地域性や政治的一帯性の問題を考慮して、揖保郡全般に関わる史料もその中に含んでいる。

このうちもっともメインになるものは、『播磨国風土記』の香山里・栗栖里・越部里等に関する記述の部分である。これら一連の史料は、古代の新宮町の生活史の具体像を復元していく上で欠かせないものである。従来とは異なった、より踏み込んだ分析・解説を加え、当時の町民生活の一端を明らかにしたいと考えている。（文責・坂江渉）

〈中世〉

1荘園公領制、2赤松氏との関わり、3地域社会の形成という3つの大テーマ、その中に9つの小テーマを立てて、史料収集をすすめ新出史料を含む300点ほどの史料を掲載する予定で（平安後期～豊臣期）、総勢5人が解説の執筆にとりかかっている。

1では当該地域の荘園公領制の特質を見通すとともに、越部荘の史料を集成し伝領関係を整理した。2では嘉吉の乱で落城する城山城の関係史料を集成するとともに、町域に建立された禅宗寺院と町出身の禅僧天隠龍沢の伝記史料を建仁寺両足院での原本調　査を踏まえて掲載する。3では町域に残されてきた史料を積極的に活用して、越部・香山・栗栖の地域的特質を明らかにしたいと考えている。（文責・大村拓生）

■研究成果の地域への還元

平成15年度の成果のうち、現時点で公表されているものは、以下の通りである。

・「新宮町・再発見ふるさと講座」（2003年6月17日午前9時30分～11時30分、新宮町民センター研修室）にて、坂江古代史部会長が、「『風土記』からみえる古代新宮町の信仰と習俗－山・橋立・鹿－」と題して講演した。

・『広報しんぐう』第518号（平成15年8月号）の「古今探訪　志んぐ草子」第29話に、坂江古代史部会長が、「新宮町の『天の橋立』―觜崎の屏風岩―」と題して研究成果の一部を掲載した。

(2)三田市史の編さん事業について

三田市は県の東部、神戸市の北に位置する、人口11万を超える市である。近年では交通網の整備が進んだこともあって、ニュータウンへの入居が進み、全国有数の人口増加地となっている。

神戸大学は平成15年（2003）度から、この三田市と提携して「兵庫県三田市に関する近世・近代大規模史料群の詳細調査」を研究題目とした共同研究を開始した。現在では主に、かつて三田藩の家老だった屋敷町九鬼家文書を整理・精査する作業にあたっている。この九鬼家史料は、近世から

近代にかけての政治・文化・経済・その他の各分野において、それぞれの時代の様子を解明するための歴史的価値が高い、数多くの史料を含んでいる。非常に貴重なものと評価できる。

この共同研究では、九鬼家史料をはじめとして三田市史編さん室に集められたさまざまな史料群を調査・精査し、現在編さん中の『三田市史』に反映させることを目的としている。それとともに、将来的には調査成果を総合的に市民に還元させることを視野に入れて、研究を進める予定である。

（文責・三村昌司）

(3) 香寺町史の編集事業について

香寺町は姫路市の北部に隣接する、人口約2万人の町である。現在、町では町制50周年の記念事業として、『香寺町史　地域編』の編集をすすめている。またこの『地域編』の刊行後、『通史編』の編集・刊行も予定されている。

今回の『香寺町史　地域編』の編集事業では、町が町民から「協力者」を募り、その「協力者」が、各地区（集落）の歴史に関して、研究活動・執筆をおこなうという特色あるスタイルがとられている。地域に根ざした、町民による手作りの『町史』編集事業であるといえる。

このような町史編纂事業に対して、神戸大学文学部では、地域連携センターの事業の一環として、平成15年（2003）11月から、町との共同研究を開始した。主に3人の担当者が、『地域編』に対応する『資料編』の編集業務にあたっている（三村昌司・添田仁・河野未央の3氏）。掲載史料の選定作業のほか、史料の解説や史料頭註の執筆作業をすすめている。

具体的には、かつて香寺町域に存在した各村落の「村明細帳」（近世）、近代に入って編まれた「香呂村史」などの基礎的史料、あるいは『地域編』本文で引用された史料等を掲載する予定である。町史編集室とも密接な連携をとりながら、学術的な成果を反映させた、より親しみやすい『町史』の編集を目指した作業がすすめられている。

（文責・河野未央）